

同和問題をはじめとする様々な人権問題への理解と 認識を深めるために ～人権教育に係る研修や啓発の充実～



人権同和教育課

人権教育授業実践研修会

本研修会は、本課作成の指導案を基にした部落問題学習の提案授業（小6・中2社会科）を通して、人権教育の指導内容・方法等の改善と充実を図ることを目的としており、5か年で全公立学校の人権同和教育担当者が研修できるように教育事務所ごとに計画・実施（5月中旬～6月）しています。

本年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、授業参観（ライブ配信・録画視聴を含む）等を行い、授業後には、部落問題学習の授業づくりについて協議しました。

部落問題学習は、同和問題をはじめとする様々な人権問題について、「差別する側に立たない、差別をなくしていく」子どもを育てるための学習です。低学年のうちから、人はなぜ差別するのかということや、偏見や差別が起こる仕組みについて、身の回りの問題と重ねて考えさせながら、更なる取組の充実を図っていきましょう。

小学校社会科における部落問題学習

歴史学習の導入（オリエンテーション）の授業では、公民的分野で学習した内容を生かして、同和問題につながる学習内容（基本的人権の尊重、識字学級）や持続可能な開発目標（SDGs）の内容を扱うことで、現在もある差別問題や人権に係る歴史について関心を高め、歴史を学ぶ意識付けが図られるように工夫しました。

授業では、文字の読み書きができないということ自分の生活と重ねながら考えさせることや、差別や貧困、戦争等の理由で、学校に行けなかった人たちが奪われたものは何かについて考えさせることを通して、「教育を受ける権利」など様々な権利の獲得までの歴史について興味や関心を持たせました。

授業参観後に参加者は、部落問題学習の積み重ねの大切さを確認するとともに、日頃からの学級づくりについて協議しました。



【始良・伊佐地区研修会での授業の様子】

中学校社会科における部落問題学習

「江戸幕府の成立と鎖国」の授業では、江戸時代の身分制度について学ぶ中で、差別の不合理性について考え、被差別身分の人々が差別の中をどのような思いで生き抜いてきたかを学び合えるように工夫しました。

授業では、江戸時代の支配体制下で、差別が制度化され、江戸時代以前よりあった人々の差別意識が強められていったことに気付かせました。また、資料「誇りをもって生きる～太鼓づくりにかける思い～」(H26「なくそう差別 築こう明るい社会」P17)を活用して、生徒に授業で学んだことを今の自分の生活と重ねて考えさせました。

授業参観後に参加者は、各校の課題や授業をする際の工夫等の意見を出し合い、今後の指導内容や方法について協議しました。



【北薩地区研修会での協議の様子】

「部落差別の解消の推進に関する法律(平成28年施行)」の第五条では、国及び地方公共団体が「部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行う」ことが明記されています。このことを踏まえ、すべての学校で、部落問題学習を計画的に進めることが大切です。

新型コロナウイルス感染症に係る啓発資料

最近のマスク着脱に係る状況等の変化を踏まえ、啓発資料「マスクをしていても、していなくても…」を作成しました。偏見や差別等の防止の徹底に活用してください。

ふだんから、一人一人のちがいを理解して、お互いを認め合う仲間づくりに努めましょう。

※ 資料は、
こちらから
⇒⇒⇒

